

2012年定員・教育予算の折衝・意見交換・交渉の報告

2011・12・27

道教組は、昨日10時より夕方まで、2012年度定員教育予算の「折衝」を各課と行い、続いて夜6時過ぎから9時過ぎまで「交渉と意見交換」を行いました。

折衝には書記局の新保・梶木・柳、種市養教部長、障教部の竹内さんが参加。

- ・種市さんからは、根室の小中合併による大規模校での養護教員の複数配置など養護教諭にかかわる問題で発言していただきました。
- ・竹内さんからは、寄宿舎の改善、特別支援教育全般について現場の強い要求を話してもらいました。

意見交換の要点解説

◆教職員御定数改善、学級編成基準について

道教組

小学校2年生の少人数学級を国の責任で行うよう道教委が国に働きかけること。
(道として小2の35人以上1学級校を責任もって35人以下学級にすること)

道教委

「来年度小学校2年生は、文科省予算に35人以下学級の加配が盛り込まれているので、この加配を使って少人数学級に推進していきたい」。

説明

国は財務省の反撃があり、文科の35人以下学級の予算要求は認めなかった。最低限の900人の増員で、現在35人以下学級になっていない都府県に手当てするだけ。国の責任で35人学級にすることを放棄。許せません。

つまり、小学校2年生の少人数学級は、北海道の場合独自で行っているのもそのまま。1学級は対象外だったが今回の増員ですべて35人以下学級に。

◆定数内期限付の改善について

道教組

全道的に期限付きが多く、学校運営上も正規職員に負担がかかっている。定数内期限付を減らすこと。(期限付教諭は毎日の仕事が忙しく、採用試験の勉強をなかなかできない)

道教委

「翌年度以降、・・・できるかぎり正規職員の配置に努めてまいりたい」。

説明

折衝の時の説明では、今年度は期限付を500人台から400人を切る人数まで減らしている。22年度でも56校が統廃合され、過員状態があるので期限付きを配置しなければなら

かったという道教委の説明です。

◆特別支援コーディネーターについて

道教組

特別支援コーディネーターは定数加配で配置すること
特別支援教育支援員を配置していないところがあり、早急に配置するよう指導すること。

道教委

「今年5月の調査で、特別支援教育支援員の未配置は16市町村ある。支援員の配置が一層促進されるように積極的に働きかけてまいりたい」。

説明

いまだに配置していない市町村にしっかり指導していないからこのように残っていると思う。一般財源に入ってくる支援員の人件費を他に流用していることは重大問題。

◆学校給食の食品検査について

道教組

子どもたちの内部被曝を防ぐため、道教委は各市町村に食品検査を行うよう指導を徹底すること。

道教委

「17都県の食材で市場に出回っているものについては、出荷段階の検査で基準内になっている。放射線物質の検査結果に関する情報を道教委のホームページに掲載している」。

説明

現時点で道教委は真剣に食品検査を進める気はないようだ。市場に出回っているものは安全だ
といういい方で、「安全神話論」に陥っている担当者の見識を疑う。市場に出回っていても子ども
たちに食べさせる食品は検査しないと安全は守れません。

◆へき地教育の条件整備について

道教組

へき地教育振興法にもとづく指定基準等が「参酌すべき基準」となり、今後条件整備の切りすてにならないこと

道教委

「今後取り扱いについて検討を進めていく必要がある」
（「但し、今すぐ何か変更することはありません」という折衝での話なのですが、将来的には不透明なので今後も要求をしていくこととなります。）

◆全国一斉学力テストについて

道教組

学力テストは希望利用なのに半ば強制されている。教職員や校長会からも疑問や反対の声が出されていてどのように考えているのか。(希望利用であれば、参加しない市町村も本来あるはずなのにおかしいではないか。)

道教委

「道内すべての市町村教育委員会に揃って参加してもらいたい」

説明

北海道の子どもたちの課題や傾向はすでにデータとして蓄積しており、抽出で十分なのに、学力テストで学校現場を追い込んでいる。「チャレンジテストや習熟度別授業を条件に従わなければ加配を配置しないかも・・・」と脅かしている道教委。まったく許せません。チャレンジテストのプリント学習が増え、授業が壊され公文の塾のようになることも。

交渉の詳細は添付した文書を見てください。